

あり方検討委員会議（第2回）の主な意見

1 大井町立幼稚園のあり方について

（1）相和幼稚園の取組の検証

○相和幼稚園の預かり保育は、ニーズにマッチしていないため、施設を残すのであれば、0～2歳児が預けられる保育園又は小規模保育園とし、町立での運営が厳しいのであれば、民間事業者をお願いできないか。

○相和幼稚園を残そうと、ニーズに合わせようとしたがアンマッチが生じ、いいところ（田舎の幼稚園）も失ってしまい、良くしようと取組をしたところあまり効果が出ていない状況である。残すのであれば、田舎の幼稚園として残してはどうか。

（2）町立3幼稚園の今後

○今後も保育へのニーズが増えていくという状況の中、保育園又はこども園をつくる必要がある場合、こども園は受け皿が広がるといった点はあるが、運営上の難しさが考えられる。

○幼稚園の入園を促すPRが必要ではないか。

○大井町の幼稚園の適正な園数はいくつか、何園が必要なのかを考える必要がある。園を減らした場合は、園バスが利用できるような方策が必要。

2 大井町立小学校・中学校にあり方について

(1) 相和小学校の取組の検証

- 取組がどうかというよりも、田舎の幼稚園・小学校に魅力を感じた。少人数の方が先生とコミュニケーションが多くとれ、その辺りに魅力を感じ相和小学校に預けている。
- 相和幼稚園・相和小学校の特色のある取組を町広報でもかなりPRされてきたが、5年間の取組も限界があり、集まりきれっていない現状がある。
- 小集団でのプラス面やマイナス面があるが、今後学年で5名を割ってしまうと、多様な意見に触れる機会が弱くなってしまう。現実を考えると再編を考えなければならない時期にきていると考える。
- 相和小学校のさまざまな特色ある取組も、結果的に児童数に反映していない状況もあるが、相和小学校は相和らしさを出し、小規模校の良さを出していけばと思う。学校がなくなれば地域の過疎化が進んでしまう。
- 今後、全児童数が一桁となってしまうと、存続が難しいかと思う。もし、相和小学校が廃校となる場合は、交通手段の確保を明確に示した上で進めてほしい。
- 子どもたちを育てるには、人数は関係ない。少人数で生かされる子どももいれば、大人数で学んだ方が良い子どももいる。

(2) 町立3小学校の今後

- 3校それぞれ力を入れるところを変え、選べれば活性化につながるのではないか。学校それぞれが特色を出して、学校を選択できる手法もいいのではないか。

【その他の意見】

- 大井町に人を増やすような新しい何かがあれば、子どもが増えるのでは。
- 相和地区の集落については、市街化調整区域であるため、宅地化が難しい状況にあるが、県西地域等で政治的なアクションを起こし、町外から転入できるような仕組みづくりをしてほしい。
- 自分が育った大井町へ戻ってきたいと思えるようなものがあれば、相和地区ももう少し子どもが増えるのではないかと思う。